

芸術科（書道） 学習指導案

1. 日 時 令和〇年〇月〇日(〇) 第〇時限
2. 場 所 書道教室
3. 学 年 第1学年
4. 科目・単元名 書道Ⅰ 仮名の書「用筆・運筆を大切に」
使用図書は、教科書：『書道Ⅰ』（教育出版）

5. 単元の目標

(1) 「知識及び技能」

○知識

- ・用具・用材の特徴と表現効果、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化について理解する。

○技能

- ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、連綿と単体、線質や字形を生かした表現の技能を身に付ける。

(2) 「思考力、判断力、表現力等」

- ・古筆の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成や意図に基づいた表現について構想し工夫する。
- ・作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」

- ・自身の表現の意図に基づく表現、仮名の書の特質に基づく幅広い表現の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
- ・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

6. 教材観

単元の最初に古典臨書の課題を設定すると、仮名の用筆・運筆による仮名本来の線の美しさの理解が不十分なまま、仮名の学習を終えてしまう可能性がある。そこで、古典の書体や書風に即した仮名の基本的な用筆・運筆を大切にしながら、少字数での作品制作を古典臨書より先に行うことで、古典の美しさを理解するとともに、仮名の幅広い表現につながるのではないかと考え設定した。

7. 生徒観

(略)

8. 指導観

仮名の書の導入では、生徒が小筆の扱いや仮名特有の線質に不慣れであることをふまえ、まず運筆の基礎を体験的に身につけられるような指導を行うことが重要となる。特に古典臨書を単元冒頭に置くと、形の模倣に意識が偏り、線の美しさや筆の動きといった本質的な理解に至らないまま、学習が進む可能性がある。そこで、古典の書風をふまえた少字数作品を先に扱い、筆の入り抜きや連綿による線の流れに集中できる環境を整えることで、生徒が小筆の基本操作を自然に習得し、仮名の美しさを実感できるようにする。短い語句による制作は、達成感を得やすく、学習意欲を高める効果もある。こうした体験を基盤として古典臨書へ進むことで、生徒は筆のリズムを読み取ろうとする姿勢を身に付け、仮名の書における古典の理解と表現力の向上を両立させる指導が可能となる。

9. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具・用材の特徴と表現効果、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。(知表) ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化について理解している。(知鑑) <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典に基づく基本的な用筆・運筆、連綿と単体、線質や字形を生かした表現の技能を身に付けている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の書風に即した用筆・運筆・字形・全体の構成や意図に基づいた表現について構想し工夫している。(思表) ・作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書の上さや美しさを味わって捉えている。(思鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の表現の意図に基づく表現、仮名の書の特徴に基づく幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(態表) ・書の上さや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(態鑑)

10. 単元の指導と評価の計画 (全6時間) [●: 指導に生かす評価 ○: 記録に残す評価]

・「仮名の書」… 10時間 ・本単元の配当時数… 6時間

	学習活動	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑
第1次 (2時間・本時)	単元の見直し							
	鑑賞① (作品例)	↓	↓			↓	↓	↓
	観点の確認① (用筆・運筆・連綿・構成「散らし書き」・墨量の変化)				↓	↓	↓	↓
	言葉の選定							
	構想・工夫①-1 草稿①-1 (単体・構成草稿)							
	構想・工夫①-2 草稿①-2 (連綿・構成草稿)				●			
	相互鑑賞、意見交換①		●			●		
	構想・工夫の見直し 草稿①-3							
	作品制作①			↓				
	学習のまとめ	↓	↓		↓	↓	↓	↓
	●指導に生かす評価 ○記録に残す評価		●	●	●	●	●	●
第2次 (2時間)	本時の見直し							
	鑑賞② (自作作品①)	↓	↓			↓	↓	↓
	観点の確認② (用筆・運筆・連綿・構成「散らし書き」・墨量の変化)					↓	↓	↓
	構想・工夫② (墨量の変化・線の肥瘦)				↓	↓	↓	↓
	作品制作②	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

第2次	相互鑑賞・意見交換②						
	構想・工夫の見直し②						
	観点の確認③ (用筆・運筆・連綿・構成「散らし書き」・墨量の変化・線の肥瘦)						
	構想・工夫③	●			○		
	作品制作③			↓			
	自己評価					●	
	学習のまとめ	↓	↓		↓	↓	↓
●指導に生かす評価 ○記録に残す評価		●		●	○	●	●
第3次 (2時間)	本時の見直し						
	観点の確認④ (用筆・運筆・連綿・構成「散らし書き」・墨量の変化・線の肥瘦)						
	作品制作④ (作品仕上げ・押印・表具)			↓			
	相互鑑賞・意見交換③						
	古典の鑑賞・意見交換④		○			○	
	古典の臨書「蓬萊切」			↓			
	単元の学習のまとめ	↓	↓		↓	↓	↓
●指導に生かす評価 ○記録に残す評価		○	○	○		○	○

11. 本時の学習過程 【第1次(2時間)】

	活動の流れ	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点 「・」指導上の留意点 「◆」支援内容	評価の方法							
					●指導に生かす評価 ○記録に残す評価 「振」振り返りシート、「作」作品、「草」草稿シート							
					知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑						
第1次	導入	10分	○単元の見直し ・前半は既習の知識・技能を生かし、事前に考えておいた7文字前後の言葉から一つ選択し、作品の草稿を制作した後、草稿を元に特に用筆・運筆を大切に作品を完成させるという学習の流れについて見直しをもつ。	・前時の提出作品と振り返りシートを返却し、学習した内容(用筆・運筆・連綿・構成(散らし書き)・墨量の変化)を確認する。前時までに配付した資料が机上に準備できているか確認する。 ・生徒の振り返りから共通した感想や課題を共有するとともに、改めて用筆・運筆(筆を真っ直ぐ立てて、腕を大きく動かす)の大切さを確認する。								

第1次	展開	40分	<p>○鑑賞①（作品例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員から提示された7文字前後の言葉の作品例について、創作作品の表現活動の参考となるよう、書を構成する要素に注目しながら鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7文字前後の言葉の作品例（二行に構成したもの）を提示し、書を構成する要素（用筆・運筆、連綿、構成（散らし書き）・墨量の変化）に着目するよう働きかける。 						
			<p>○観点の確認①</p> <p><書を構成する要素></p> <p>用筆・運筆、連綿、構成（散らし書き）・墨量の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の知識・観点を確認し、鑑賞①の作品を参考にし、書を構成する要素を用いて、表現の構想・工夫を何度も繰り返しながら草稿を作り、何枚も書いて作品を完成させることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞①の作品を何枚かプロジェクターで映し、書を構成する要素やその表現効果について、質問するなど理解が深まるように働きかける。（ICTの活用） 						
			<p>○言葉の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に考えたいいくつかの言葉から、作品にする言葉を選択する。鑑賞①の作品例や単体・連綿の文字資料を参考に選定し、ワークシート〔図A〕に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 鑑賞①の作品例や単体・連綿の文字資料をよく見て参考にし、連綿で続けやすく、散らし書きの作品として構成しやすい言葉を選定できるよう支援する。 						
			<p>○構想・工夫①-1（草稿①-1：単体・構成（散らし書き））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単体の資料から創作で使用する文字を選び、切り取る。行の長短、構成（散らし書き）についてよく考え、草稿シートに配置する。配置した文字の字間の疎密や、隣の行との関係などに留意し、草稿シート上の単体を動かしながら、構成について構想・工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の知識・観点を生かし、試行錯誤を繰り返しながら各自の表現意図に応じた選択ができるよう働きかける。 ◆ 草稿制作が難しい様子の生徒には学習活動の再確認をし、問題を解決できるような声かけと支援をする。 						

第 1 次	40 分	<p>○構想・工夫①-2 (草稿①-2：連綿・構成 (散らし書き))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草稿シートに並べた文字の中で、連綿を入れたい箇所の横に、連綿の資料から切り取った、参考となる連綿部分を配置する。その際、再度、字間の疎密や隣の行との関係などに注意しながら、構成について構想・工夫する。表現の意図に応じて構想が固まったら、単体や連綿を草稿シートに貼り付け、振り返りシート [図B] の1-①②に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識・観点を生かし、試行錯誤を繰り返しながら各自の表現意図に応じた選択ができるように働きかける。 ◆連綿による表現効果を考え、作品制作における工夫として表現できるよう支援する。 				振 ●			
		<p>○相互鑑賞・意見交換①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者と草稿シート(草稿①-2)の共有、相互鑑賞を行う。お互いの草稿シートを確認しながら、それぞれの表現の意図、意図に基づく構想、その実現のための表現の工夫等について発言し、振り返りシート [図B] の2に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の草稿シート(草稿①-2)や意見を認め合い、それらを尊重する姿勢で学習活動を行うよう、生徒に留意させる。 	振 ●		振 ●				
		<p>○構想・工夫の見直し① (草稿①-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再度、各自の草稿を見直し、行の長短・紙面構成(散らし書き)・連綿について確認し、改善点があれば改善する。 ・見直しが終わったら、草稿シートの上に仮名半紙を重ね、筆の動きに注意して鉛筆で写し、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の草稿シート(草稿①-2)の表現の工夫で参考ができるところがあれば、自身の草稿に生かすよう働きかける。 ・前回の単元 [仮名の書①②] で学習した用筆・運筆を意識しながら、鉛筆で表現するよう働きかける。 							
		<p>○作品制作①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆に注意しながら、草稿①-2・3をよく見て筆で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の単元 [仮名の書①②] で学習した用筆・運筆を生かし、草稿①-2・3をよく見て表現するよう働きかける。 ◆基本の用筆・運筆(筆を真っ直ぐ立てて、腕を大きく動かす)ができるよう支援する。 		作 ・ 草 ●					

第1次	まとめ	10分	○学習のまとめ ・身に付けた技能を改めて見つめ直すとともに、見方・考え方を働かせて制作した本時の作品と、その制作過程を振り返る。書を構成する要素を理解して作品に表現できたか自己評価を行い、振り返りシート〔図B〕の3に記入する。	・本時を振り返らせ、自身の学習の振り返りが、本時以降の学習の見通しに繋がられるよう働きかける。						振 ●	振 ●
			●指導に生かす評価 ○記録に残す評価		●	●	●	●	●	●	

【評価の方法の具体】

知鑑●：【相互鑑賞・意見交換①】相互鑑賞・意見交換①の活動を通して、既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点を併せて学習してきた〔共通事項〕の内容（用具・用材の特徴と表現効果、線質や書風と用筆・運筆との関わり）について理解して活用し、適切に言語化しているかを、草稿シート（草稿①-2）や振り返りシートへの記述内容から見取る。見取った内容を基に、よい知識の活用例や全体に見られる傾向などをクラス全体へ例示したり、口頭でアドバイス・共有したりすることにより、指導に生かす。

技 ●：【作品制作①】作品制作を通して、表現の意図及びそれに基づく構想の実現のために工夫する中で、基本的な「用筆・運筆・連綿・構成（散らし書き）」等を表現するための技能を身に付け、作品に表しているかを、作品及び草稿シート（草稿①-2）から見取る。見取った内容を基に指導に生かす。

思表●：【構想・工夫①-2】構想・工夫①-2の活動を通して、用筆・運筆、連綿、構成（散らし書き）・墨量の変化等について考えたり、既得の知識・観点〔共通事項〕を活用したり、他者の見方・考え方に触れて書のよさや美しさを味わって捉えたりして、自身の意図に基づく表現のために効果的に生かして構想・工夫しているかを、振り返りシートの記述内容から見取る。見取った内容を基にクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有することにより、指導に生かす。

思鑑●：【相互鑑賞・意見交換①】相互鑑賞・意見交換①の活動を通して、見方・考え方を働かせ、既得の知識・観点〔共通事項〕を活用して、根拠に基づいて書のよさや美しさを味わって捉えることで、広げた自身の考えを適切に言語化しているかを、振り返りシートの記述内容から見取る。また、振り返りシートはアドバイスを記入して次時に返却するとともに、よい知識の活用例や全体に見られる傾向などを、クラス全体に例示・共有し、指導に生かす。

態表●・態鑑●：

【学習のまとめ】単元の学習を通じて、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強く取り組もうとしているか、また、その中で自らの学習を調整しようとしているかの両側面を、草稿シート・振り返りシートの記述内容から見取る。また、振り返りシートはアドバイスを記入して次時に返却するとともに、よい知識の活用例や全体に見られる傾向などを、クラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有することにより、指導に生かす。

仮名創作 言葉さがしプリント

() (組 書道番号) () (番 名前) ()

●七文字前後の言葉を三つ以上考えましょう。

注意

▼ ▼

⑤		③	②	①
		その他、書きたい言葉	「○○しい」「○○しく」が入った言葉 例…うつくしいはな・たのしくいきる	「ころろ」が入った言葉 例…ころろにはなを

書道I仮名創作 振り返りシート

() (組 書道番号) () (番 名前) ()

一、作品の表現の工夫を説明しよう。

① 行の長短・構成(ちらし)・字間の工夫について **思表**

- ・ 行の長短…一行めを(長く・短く)、二行めを(長く・短く)した。
- ・ 構成(ちらし)…一行めを(高く・低く)、二行めを(高く・低く)した。
- ・ 字間…

② 連綿の箇所(どの文字と文字を、どのようにつないだか) **思表**

二、友達の草稿を見て、書道の適切な用語を使って書こう。 **知鑑・思鑑**

- ・ 良い点
- ・ 更によくなるようなアドバイス

三、本日の学習を振り返って、次のことを具体的に自分の言葉で書こう。 **態表・態鑑**

- ・ 難しかった点
- ・ 作品の完成に向け、以降、本日の学習をどのように生かしていきますか？